

02 関西パビリオン 概要

2.1 出展、展示概要

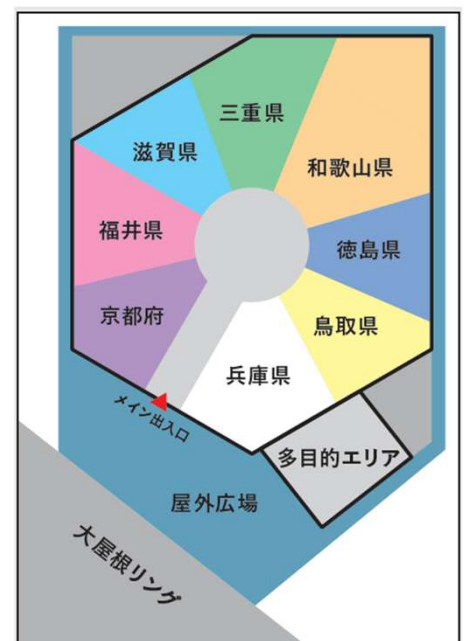
- 名称 : 関西パビリオン
- テーマ : いのち輝く関西悠久の歴史と現在
- 出展参加でめざすもの : ①地域に息づく「いのち」と未来へと続く「いのち」の発信
②関西各地へのゲートウェイ
- 出展の主体 : 関西広域連合
- 出展参加府県 : 滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県
- 基本構成 : ①関西全体を表現する展示エリア
②出展参加府県による独自展示エリア（奈良県は独自展示エリア無し）
③関西・WEBパビリオン
- ロゴマーク : 六角形と白い膜による灯籠をイメージした関西パビリオンをモチーフに、内部から温かく柔らかな9色の光が放たれる様子を表現。使用した9色は出展参加した9府県の個性、多様性、魅力を象徴し、多彩な色が一つにまとまり調和を生み出すデザインは、異なる価値観や文化を持つ9府県が一堂に会し、協力しながら共通のビジョンを実現する姿を示しています。



■出展位置



(提供:公益社団法人2025年日本国際博覧会協会)



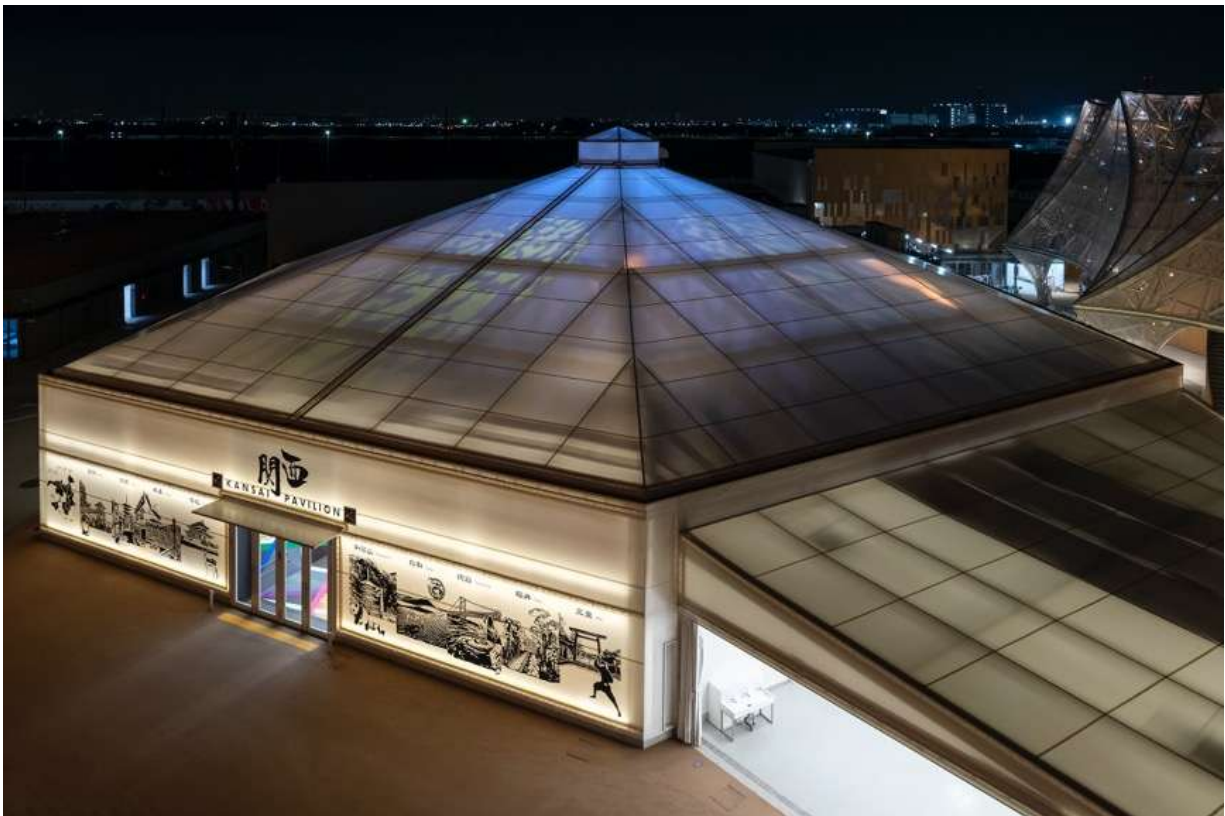
■ 建築コンセプト：笑顔あふれる輝く未来へ、いつも楽しい、にぎわいのパビリオン

- ① 灯籠をイメージした六角形のパビリオン
- ② 最高12mの高さを活かした展示
- ③ いにしえより受け継がれてきた切り絵で“関西”を表現
- ④ 多目的エリアでのイベント開催
- ⑤ 軽量素材・省資源化による環境負荷及びコスト低減

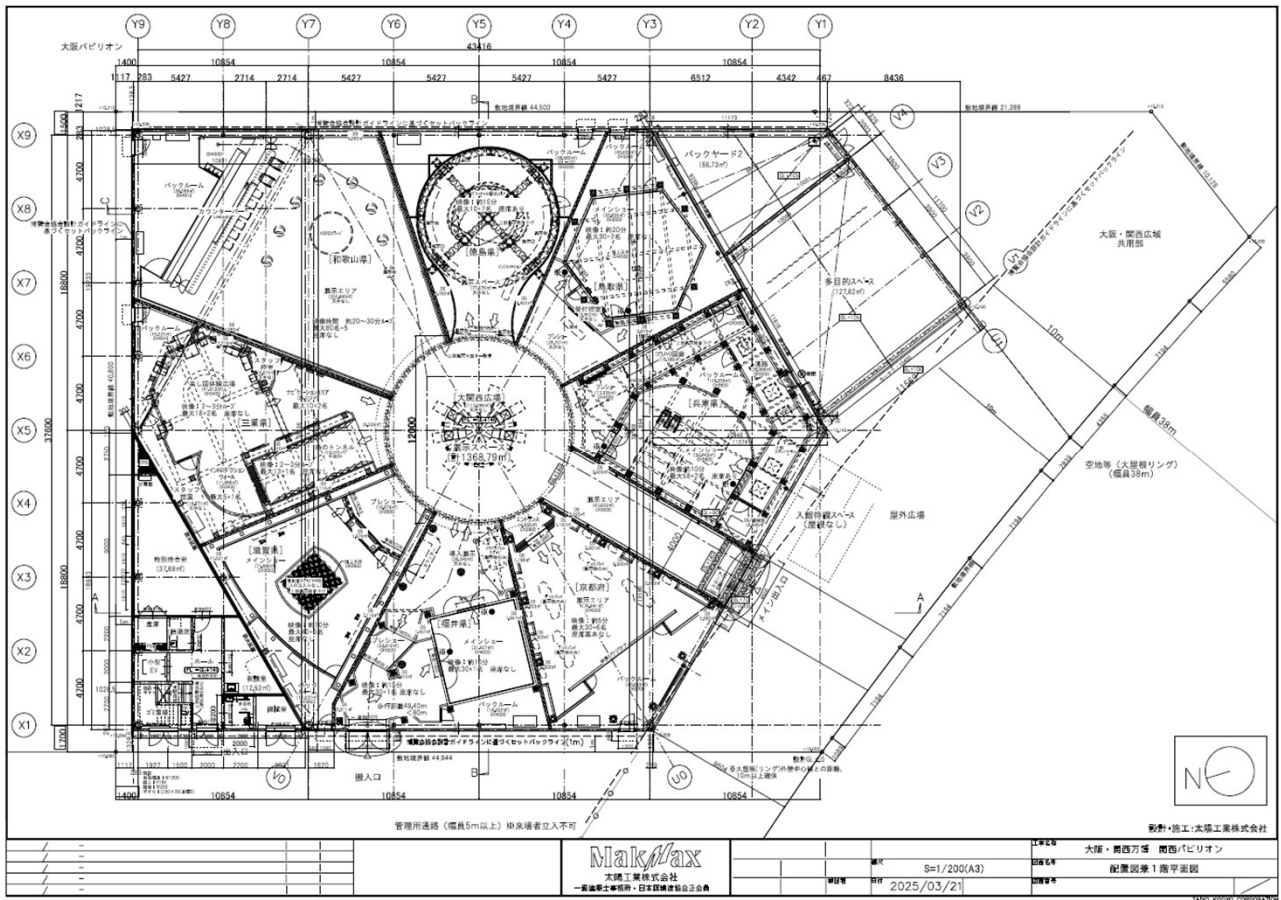
■ 規模・面積：敷地面積 2,453㎡、建築面積 1,657㎡、延床面積 1,877㎡
(内訳：展示スペース 1,367㎡、バックヤード 380㎡、多目的エリア130㎡)



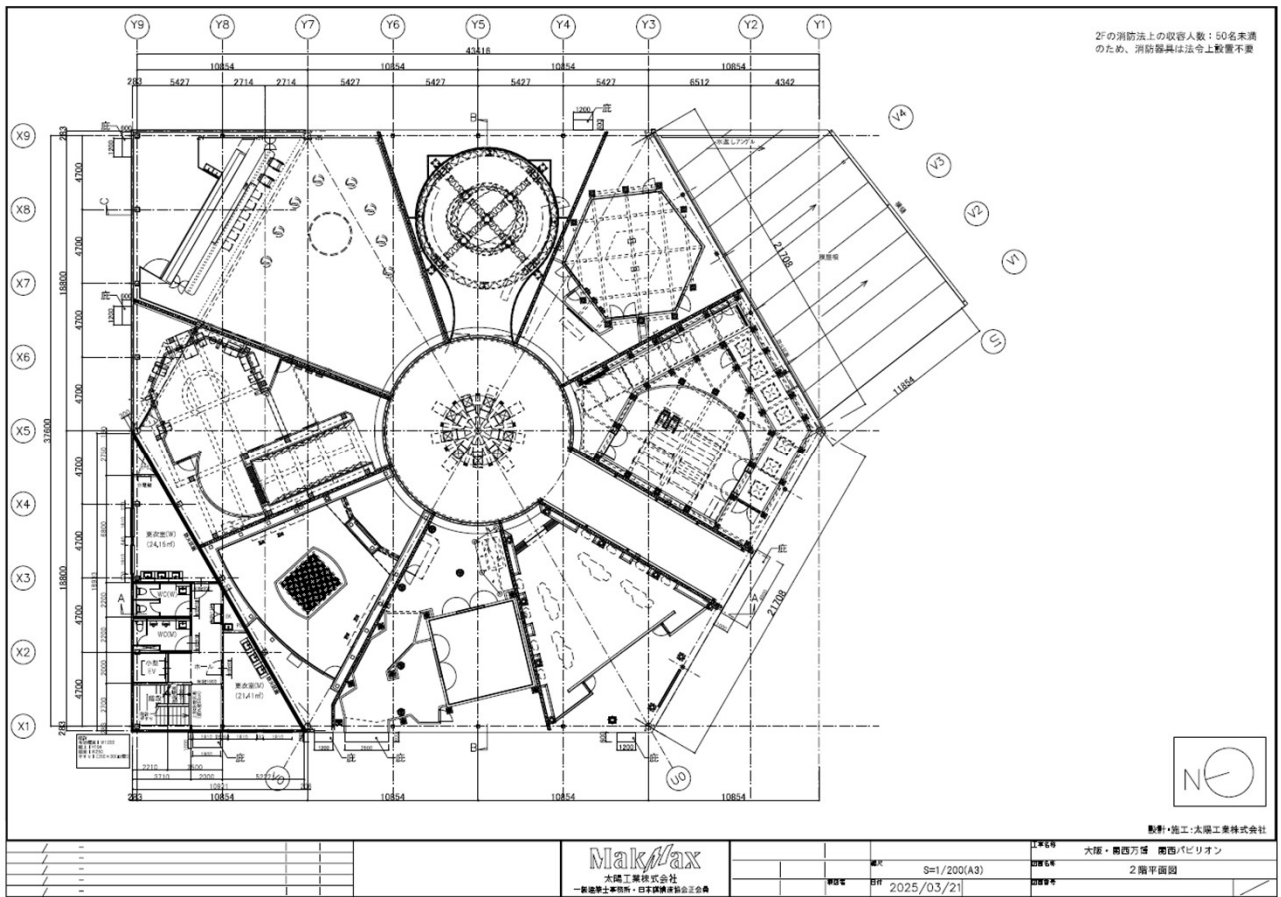




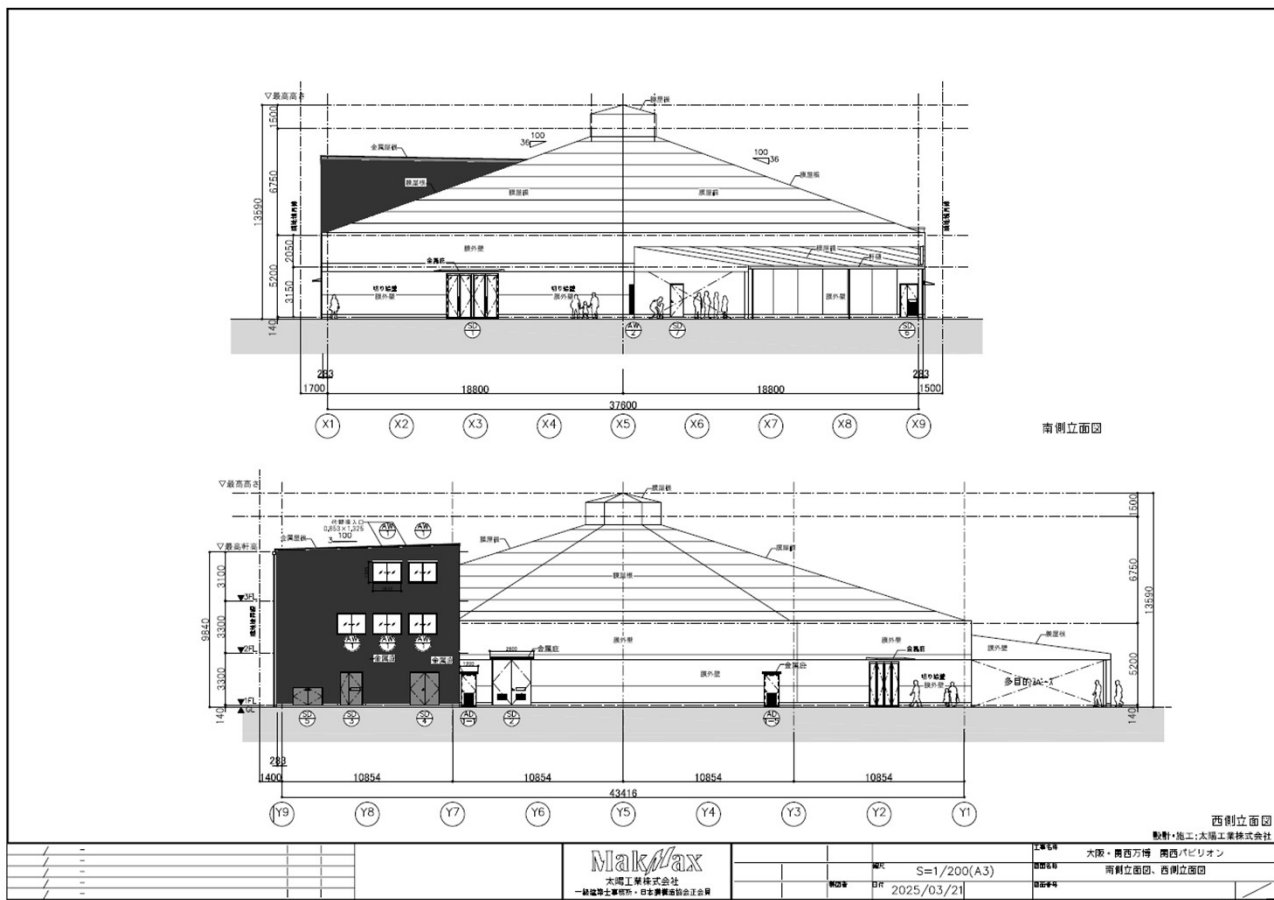
■1階 平面図



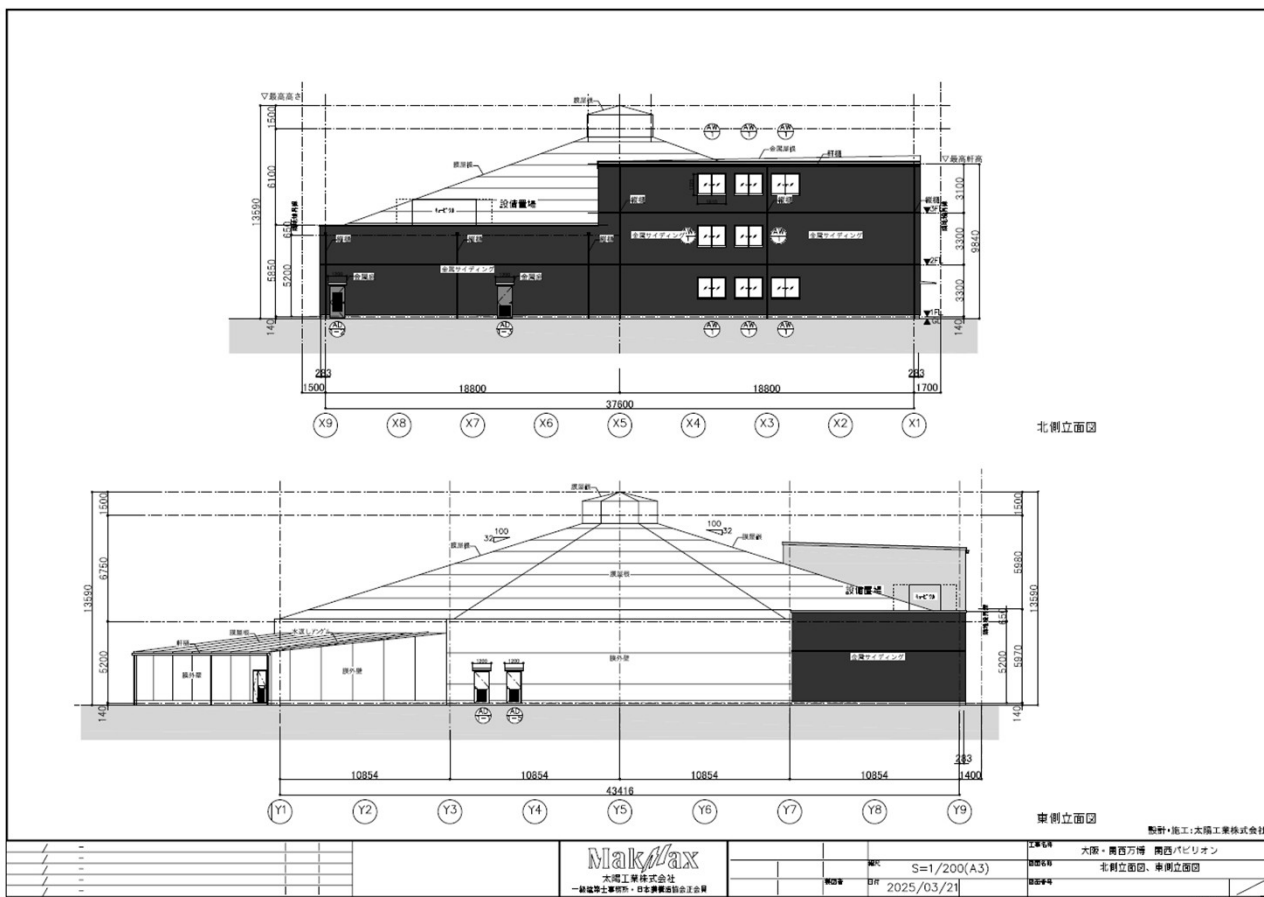
■2階 平面図



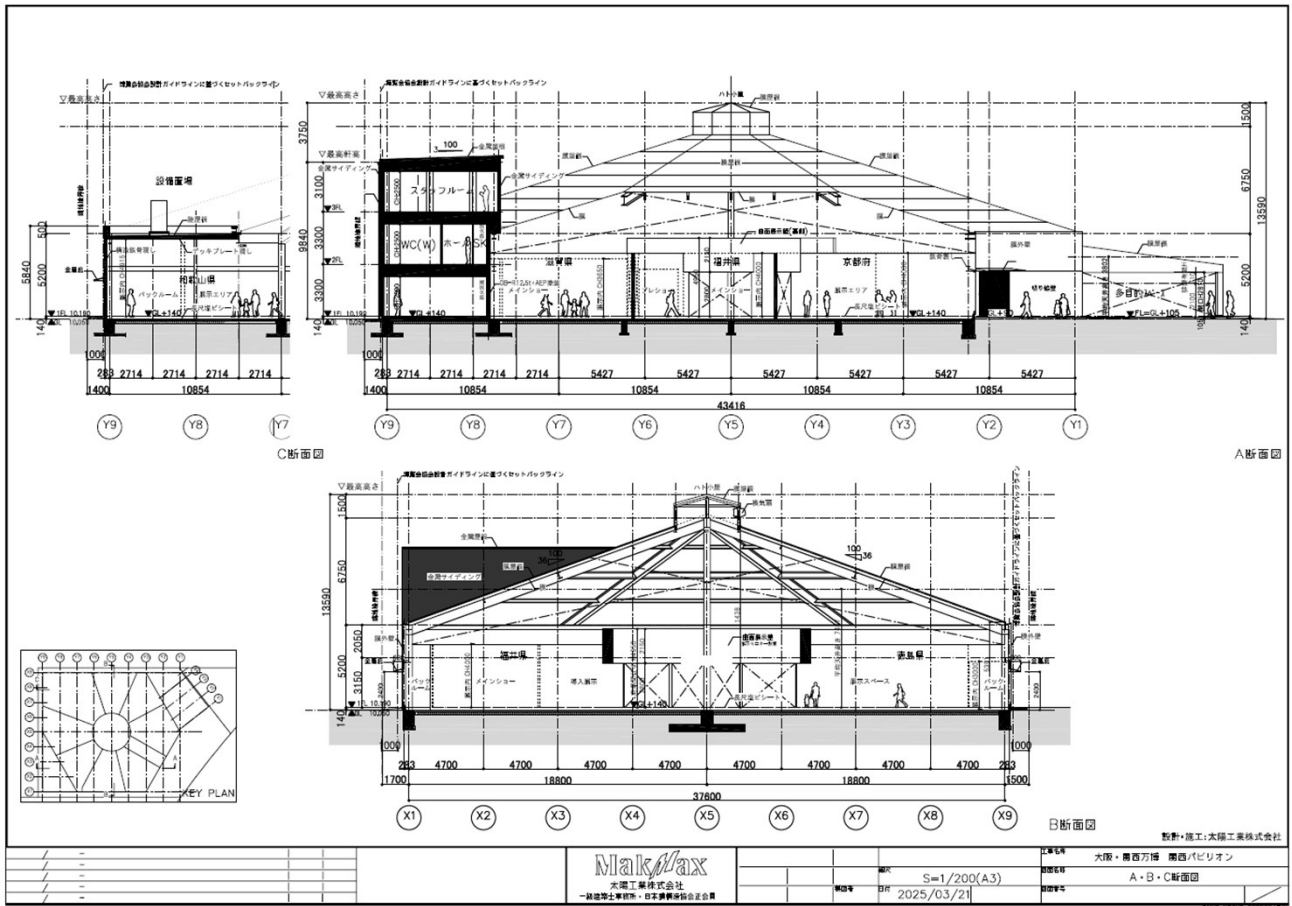
■南側立面図、西側立面図



■北側立面図、東側立面図



■ A・B・C断面図



■切り絵デザイン

六角形と白い膜で灯籠をイメージした建物の外壁には、関西各地を象徴する切り絵を配置しました。

滋賀県



浮御堂・信楽焼のためぎ

京都府



八坂の塔・舞妓

兵庫県



神戸の街並み・コウノトリ

奈良県



大極殿院・鹿

和歌山県



那智の滝と三重塔・パンダ

鳥取県



鳥取砂丘・まんが王国とっとり

徳島県



鳴門の渦潮・阿波踊り

福井県



永平寺・鯖と越前ガニ

三重県



伊勢神宮・忍者

■ エントランスゾーン

来館者を非日常空間に引き込むために、関西パビリオンのコンセプトを体現し、関西各地を巡るワープトンネル空間を創出します。これから始まる関西パビリオンへの体験の期待感を醸成させるプロローグ空間です。

奈良県を含む関西9府県の多面的な魅力を織り込み、関西の“過去から現在、そして未来へ”。時空を超え、関西パビリオンと各府県を繋ぐ“ゲートウェイ”としての演出を施します。春夏秋冬の季節のなかに、関西にまつわるモチーフを散りばめたイラストは、アーティストの山口 哲司氏に手がけていただきました。



02 関西パビリオン 概要

■センターサークル

関西全体を表現する展示エリアで、高さ12メートルの吹き抜け空間の中に「360° LEDサークルビジョン」を設置。関西9府県が誇る美しい「四季の巡り」を表現する映像コンテンツを提供し、各府県ゾーンへの期待感を醸成します。中心の柱には、各府県情報をバナーで提供し、あわせて各府県をイメージできる「触って感じる展示物」とスタンプラリーのスタンプを設置しました。



■ 触って感じる展示物

滋賀県

・ 信楽焼 たぬき

信楽焼は滋賀県甲賀市信楽町周辺で作られる陶器で、鎌倉時代（13世紀）後半に始まったとされる「日本六古窯」の一つです。たぬきは「た（他）」「ぬき（抜き）」＝「他を抜く」という意味に通じるため、信楽焼のたぬきは「商売繁盛の縁起物」として店先等に置かれ、関西パビリオンの各所にも描かれました。



京都府

・ 京焼・清水焼 茶碗

「京焼」は茶の湯の流行とともに、東山山麓地域を中心に広がった焼き物で、「清水焼」は清水寺の参道である五条坂で作られていた焼き物です。京都は焼き物の大量消費地だったため、さまざまな地域の陶工たちが集まり、各産地の原料や技術を融合させ独自の進化を遂げました。

兵庫県

・ 淡路瓦（鬼瓦）

淡路瓦の起源は約400年前まで遡るといわれます。特徴は、原料となる淡路の粘土に由来する『いぶし瓦』。その美しい色合いから、屋根瓦だけでなく景観材など、様々な用途で使用されます。淡路瓦の中でも一つ一つ手作りで作られる鬼瓦は、日本家屋の屋根の端に取り付けられ、雨除けとしての実用的な機能のほか、魔除けの意味も持っています。



奈良県

・奈良筆

6世紀頃に中国から伝来し、7世紀頃には奈良の飛鳥地方で作り始められ、奈良時代に入ると製筆の技術も進歩したと考えられています。毛質に応じて配分・寸法を決めて混ぜ合わせ、毛組みに時間をかける「練り混ぜ法」により、穂先の仕上がりに絶妙の味がある高級毛筆が作られています。



和歌山県

・「戻り苗」と「森の木霊」

植林用苗木をどنگりから室内で育てて山に戻す、新しいカタチの観葉植物“戻り苗”。苗が森の中で根付くよう、林業の育苗用コンテナを使用しています。「森の木霊」は木のオブジェです。森に宿る小さな精霊をイメージして作られています。ツボを押しったりリンパマッサージができます。「戻り苗の木鉢」には紀州材の檜、「森の木霊」には紀州材の檜やブナが使用されています。



鳥取県

・弓浜緋 テディベア

鳥取県西部の「弓ヶ浜」は江戸時代から特産の木綿「伯州綿」を使った緋の産地として知られ、昭和50年には「弓浜緋」として国の伝統的工芸品に指定されました。農家の自家用の仕事着や布団生地などから始る弓浜緋は、家族の健康や長生きを願う縁起のよい柄等の素朴な絵柄で知られ、吸湿・保温性に富んだ木綿素材であることが大きな特徴です。



徳島県

・阿波おどり 用具

「阿波おどり」は徳島で発祥し、400年以上の歴史を持つ盆踊り・伝統芸能です。今やその人気は、国内のみならず世界各地に広がっています。踊り子が身につける編み笠や下駄、印籠などの様々な用具は、伝統を継承しつつ、時代にあわせて変化しており、踊り手の息づかいが感じられます。



福井県

・CITON 撥水加工 越前和紙 ピクニックシート

「CITON」は、和紙から生まれた100%生分解性の地球にやさしいピクニックシートです。越前和紙を1枚1枚職人が手で揉んでシワを付けているため、柔らかくクッション性があり、1つとして同じ表情がありません。「CITON」は、伝統工芸品を現代のライフスタイルに合わせてアップデートしていくプロジェクト「F-TRAD」で誕生しました。

三重県

・四日市萬古焼 土鍋

「四日市萬古焼」は江戸時代中期に桑名商人沼波弄山(ぬなみろうざん)が茶の趣味が高じて自ら茶器を焼き始めたのが始まりとされています。そして、自分の作品が永遠に残るようにとの願いを込め「萬古不易(ばんこふえき)」の印を押したのが萬古焼の名の由来です。萬古焼は耐熱性が高く保温性もあるのが特徴で、土鍋の生産高は国内産土鍋の約80%を占めています。



02 関西パビリオン 概要

■公式スタンプラリー

来館者が来館記念として押印・収集し、思い出を記録できる公式スタンプラリーを実施しました。また、各府県のサテライト会場にもスタンプを設置し、多くの方々に関西各地を観光周遊していただきました。

滋賀県

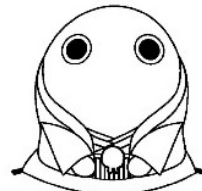


館内



サテライト

京都府



ICHIZAKYOTO

館内



ICHIZAKYOTO

サテライト

兵庫県



館内



サテライト

奈良県



館内



サテライト

和歌山県



館内



サテライト

鳥取県



館内



サテライト

徳島県



TOKUSHIMA
OSAKA, KANSAI

館内



サテライト

福井県



館内



サテライト

三重県



館内



サテライト

サテライト会場

- 滋賀県 滋賀県立琵琶湖博物館
- 京都府 JR京都駅
- 兵庫県 兵庫県立美術館ギャラリー棟
- 奈良県 平城宮跡歴史公園 天平うまし館
- 和歌山県 わかやま歴史館 和歌山市観光土産センター
- 鳥取県 山陰海岸国立公園 鳥取砂丘ビジターセンター
- 徳島県 JR徳島駅
- 福井県 福井県立恐竜博物館
- 三重県 赤目自然歴史博物館

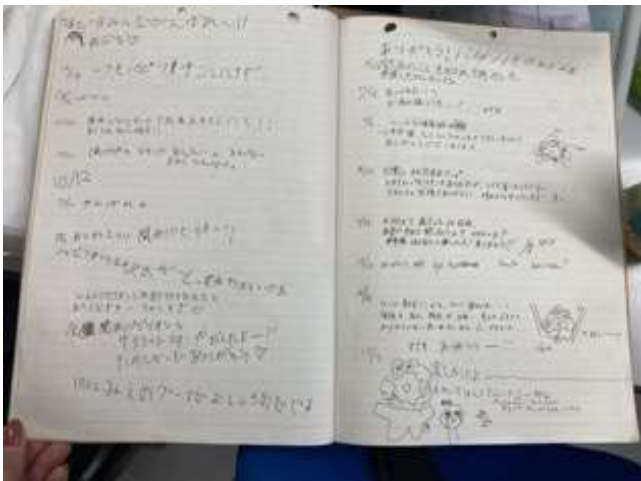
■多目的エリア

関西パビリオンに隣接し、屋外広場に向けて大きく開けた多目的エリアでは、伝統芸能や産業、食文化の展示等、様々な行事や催事を、一定期間で入れ替え実施しました。



■納涼テント（関西プチ（Petit KANSAI））

2025年8月、関西パビリオン前の屋外広場に日陰となるテントを設置し、関西パビリオンの各府県ゾーンの展示内容の紹介動画をデジタルサイネージで放映しました。予約した方々へのスムーズな観覧と予約なしの来場者の方々に少しでも関西パビリオンを知っていただくことを目的とし、連日多くの来場者で賑わいました。



※テント内に設置した「お客様の声」ノート

■ 関西・WEBパビリオン

関西パビリオンへの誘客及び関西各地への来訪を促すゲートウェイとしての役割を果たすことを目的とし、関西パビリオンの情報や関西各地の観光等の魅力を発信するWEB上のパビリオンとして、会期前から多くの方々に閲覧いただき、アクセス数は665,006（2025年12月31日時点）に達しました。

■ 主なコンテンツマップ

